

令和7年度「米原市学力状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

米原市では、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、平成17年度から学力状況調査を実施している。

この調査は、学習内容の理解度を測る「教科学力」とともに、その背景となる「学習意識」も客観的に調査し、米原市の児童の学ぶ力の実態を多面的に把握するものである。

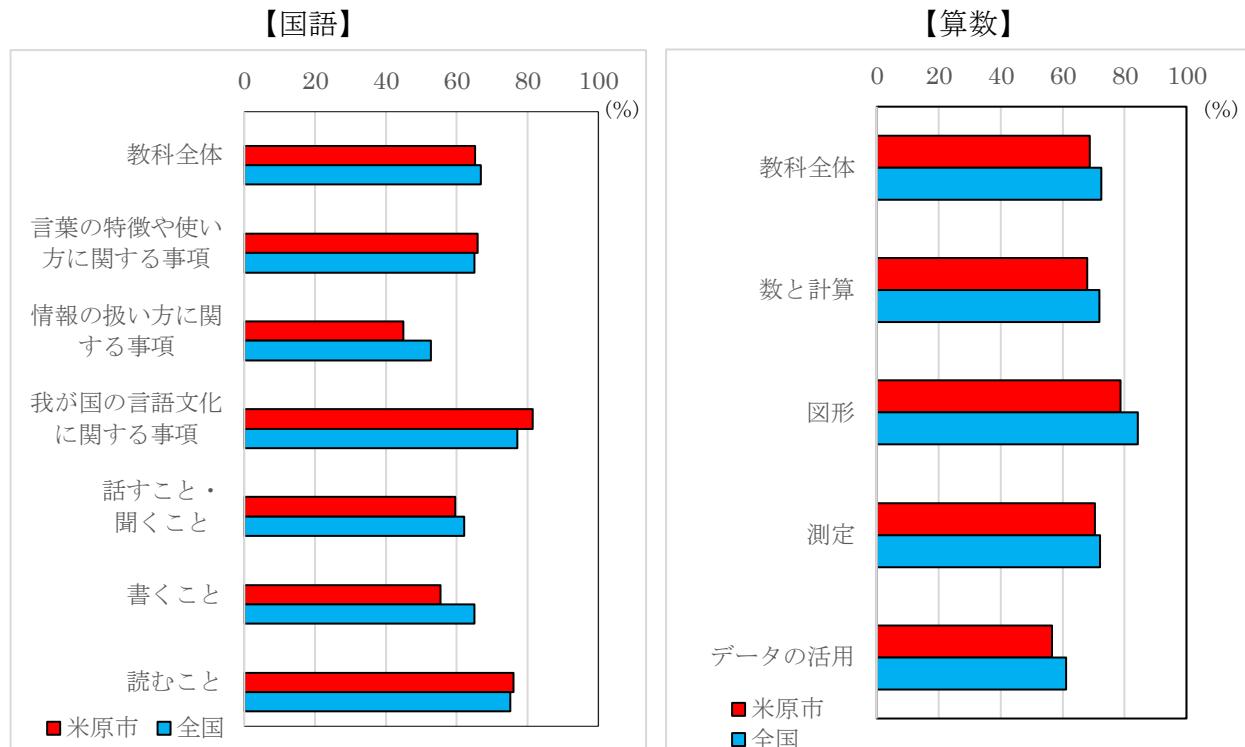
そして、その結果を分析し、各学校の実態に応じた授業改善へつなげていく。さらに、学校が児童生徒一人ひとりの学習定着状況を把握し、的確な個別指導を行うための一助とする。

(2) 調査の対象および内容

- ・調査対象 … 小学校第4学年（市内9校）326人
- ・調査内容 … 標準学力調査 国語・算数の2教科（各40分）
質問紙調査 「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習習慣」「米原市独自の質問」（40分程度）
- ・調査期日 … 令和7年5月26日（月）～5月30日（金）のうち各校が定めた日

2 標準学力調査の結果

(1) 標準学力調査の平均正答率



・4年生国語を見ると、観点別に差異はみられるものの、やや全国平均を下回っている。問題の領域では、「情報の扱いに関する事項」「書くこと」に課題があるといえる。

・4年生算数を見ると、全国平均を下回っている。問題の領域ではすべての領域で全国平均を下回っており、基礎的な学力の定着に課題があるといえる。

(2) 全国正答率と比較して差が大きい問題

【国語】「書くこと」

7

音楽クラブが、休み時間に体育館で発表会を開くことにしました。学校のみんなに発表会の場所と日時を知らせるためには次のアとイの方ほうのうち、どちらがよいと思いますか。あなたの考えを、下の(注意する点)を守って書きましょう。

① 先生にうだんする。
 ② 家のいわで遊ぶ。
 ③ ボールをなげる。

(注意する点)

イ 発表会の場所と日時を書いたポスターを、校内のみんなが通る所にはる。

ア 学校のみんなが集まる集会で、発表会の場所と日時を話す。

【算数】「数と計算」

4 次の計算をしましょう。

(1) $438 + 1976$

(5) $18 \div 6$

(2) $501 - 243$

(6) $13 - 7.8$

(3) 67×8

(7) $\frac{4}{7} + \frac{1}{7}$

(4) 96×42

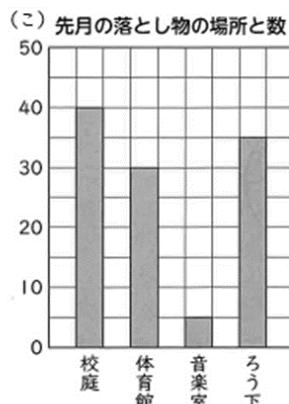
【算数】「データ活用」

14 次のぼうグラフは、とおるさんの学校の先月の落とし物について、

見つけた場所と数を表したものです。

あとの問題に答えましょう。

(1) グラフの1めもりは何こを表していますか。



(2) 先月の落とし物について、校庭の落とし物の数は、音楽室の落とし物の数の何倍ですか。

2

(2) 次の文の一線のひらがなを、漢字に直して書きましょう。(3)は、送りがなも書きましょう。

● ● ●

① 先生にうだんする。

② 家のいわで遊ぶ。

③ ボールをなげる。

次の問題に答えましょう。

3 質問紙調査の結果

(1) 質問紙調査の肯定率

①「肯定率」とは

肯定率…4択の質問のうち、良好な回答1、2の合計のこと。

② カテゴリ一分類

- I 自己認識 ⇒『愛されているか』…「家族のささえ」「友だちのささえ」「先生のささえ」
⇒『自己肯定感』…「成功体験と自信」「充実感と向上心」「他者からの評価」「感動体験」
- II 社会性 ⇒『ソーシャルスキル』…「規範意識」「思いやり（人間関係構築力）」「発信力」「対話・話し合い」
- III 学級環境 ⇒『学級風土』…「学級の規範意識」「学級の絆」
⇒『リスク管理』…「いじめのサイン」「対人ストレス」
- IV 生活・学習習慣 ⇒『生活習慣』『学習習慣』『学習意欲』

③ 小学校第4学年の肯定値（↑は全国より5ポイント以上、上回っているもの）

分類	区分	米原市	全国	全国との差	
自己認識	家族のささえ	94.1	91.3	2.8	↑
	友だちのささえ	92.2	86.5	5.7	↑
	先生のささえ	88.9	83.7	5.2	
	成功体験と自信	90.0	86.0	4.0	
	充実感と向上心	90.4	86.9	3.5	
	感動体験	84.0	79.4	4.6	
社会性	他者からの評価	70.8	64.3	6.5	↑
	規範意識	85.9	82.6	3.3	
	思いやり（人間関係構築力）	92.1	88.1	4.0	
	発信力	72.3	63.7	8.6	↑
学級環境	対話・話し合い	89.1	90.2	-1.1	
	学級の規範意識	77.1	70.2	6.9	↑
	学級の絆	91.9	87.9	4.0	
	いじめのサイン	73.2	72.4	0.8	
生活 学習習慣	対人ストレス	73.8	70.7	3.1	
	生活習慣	77.4	76.0	1.4	↑
	学習習慣	60.5	54.8	5.7	↑
平均	学習意欲	82.8	77.0	5.8	↑
	平均	82.6	78.4	4.2	(%)

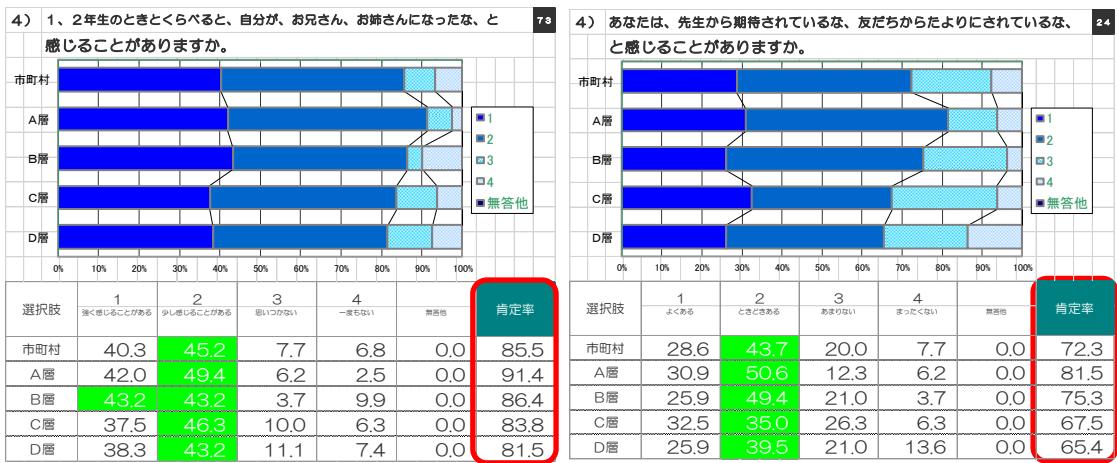
- ・最も肯定値が高い質問
「好きな教科やじゅぎょうがありますか」
97.2
- ・最も肯定値が低い質問
「あなたは、学校生活の中で他の人が発言したり、発表したりするときに、質問をしていますか」
- ・全国と比較して肯定値が高い質問
「学校のじゅぎょうの、予習やふく習をしていますか」
68.0 (+14.8)
- ・全国と比較して肯定値が低い質問
「学校のじゅぎょうでは、となり同士やグループで、話し合いをすることありますか。」
89.9 (-3.1)

「対話・話し合い」の項目以外は、すべての項目において全国平均より高い。特に、「友だちのささえ」「先生のささえ」「他者からの評価」「発信力」「学級の規範意識」「学習習慣」「学習意欲」は、全国平均より5ポイント以上高く、かなり良好である。

(2) 学力調査結果とのクロス集計

※標準学力調査の受検教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。

① I 自己認識



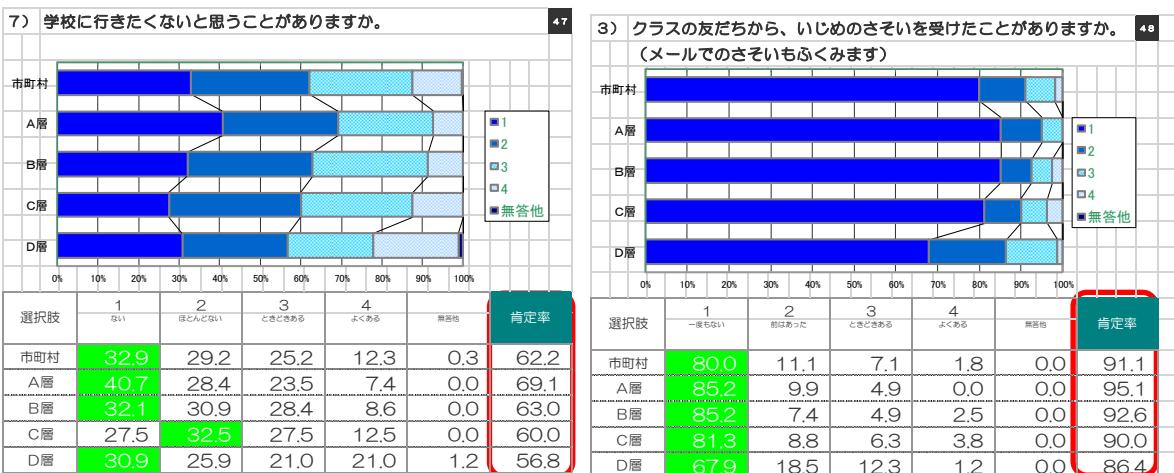
自分の成長を感じられる児童ほど、学力が高い傾向にある。

先生や友だちから頼られていると感じる児童ほど、学力が高い傾向にある。

② II 社会性

学力との大きな相関関係は見られなかった。

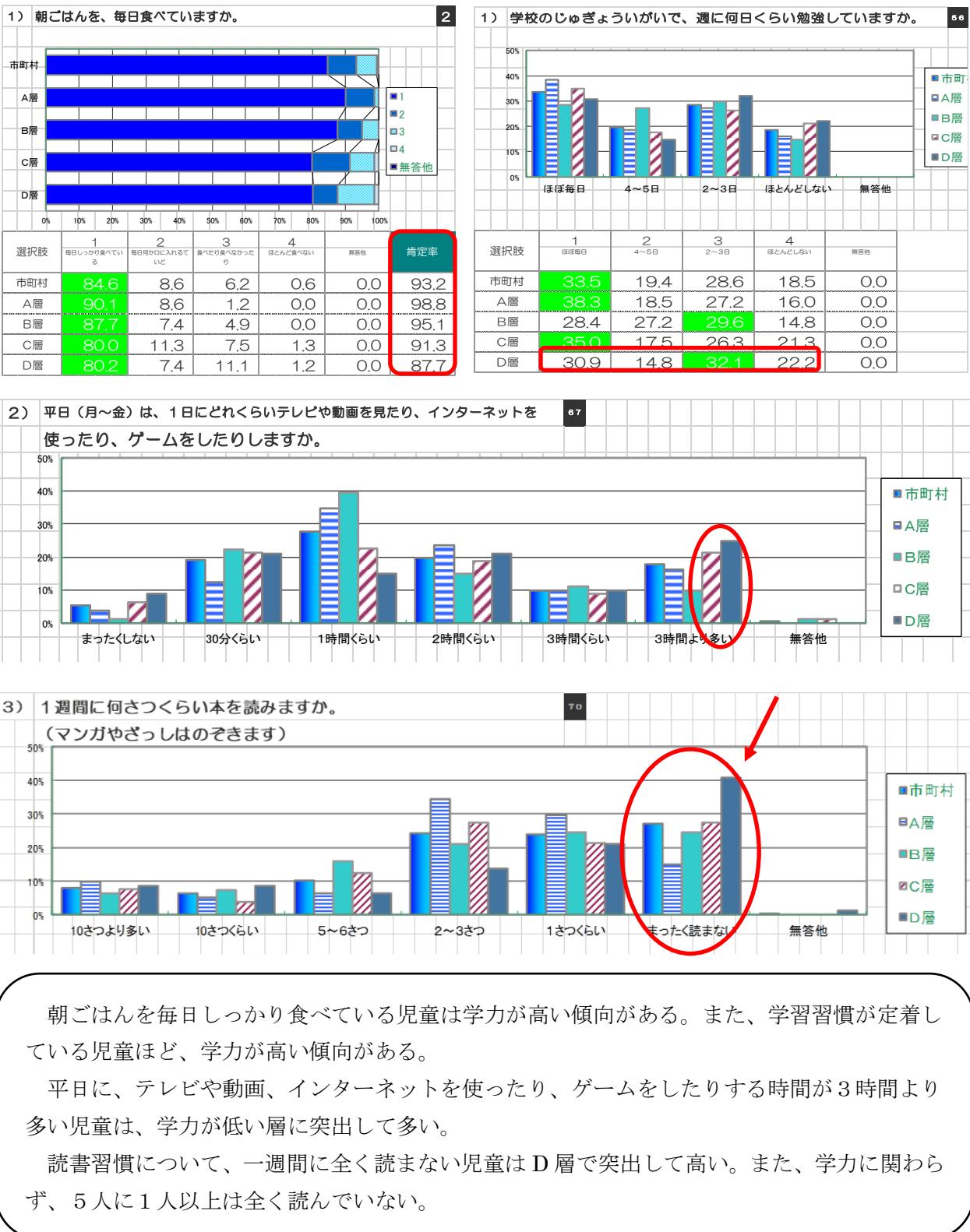
③ III 学級環境



対人ストレスに関する項目において、良好な回答をする児童ほど、学力が高い傾向にある。

一方、C層、D層では、いじめのさそいを受けたことが「ときどきある」「よくある」が高い傾向にある。

④ IV 生活・学習習慣



4 考察

今回の学力調査では、国語・算数ともに全国平均を下回り、課題が見られた。その要因として、国語では、特に書くこと（漢字、文章を書く）、情報の扱い方に関する事項に苦手意識があることが明らかになった。改善策として、ドリル教材などを活用し、漢字を正しく書けるよう繰り返し練習することが挙げられる。また、日頃から目的や条件に応じて、まとめた文章を書くことを繰り返

すことなどが考えられる。

算数では、「大きな数・小数・分数」をはじめ、基礎的な学力の定着ができていないことが明らかになった。改善策として、モジュール学習やドリル教材などを活用した持続的な反復練習や、友だち同士で、自分の意見を伝え合ったり、考えを説明したりする時間を意識的に取り、「算数のことば」を正しく理解するなどの取り組みが考えられる。

また、「生活・学習習慣」も要因の一つとして考えられる。クロス集計の結果から、朝ごはんや授業以外の学習時間、動画やインターネット、ゲームの利用時間等の生活習慣や、読書習慣などで学力と平均正答率との間に相関が見られる。このことから生活・学習習慣の充実が学力と結びついていると推察される。

5 学力向上の策定について

今後も学校では、児童理解につとめるとともに、子ども一人一人に合わせた支援を行っていきたい。また、市内各小中学校においても、各校独自の分析や課題改善に向けた学ぶ力向上策を策定し、具体的な取組と検証を進めていく。

一方、家庭での生活・学習習慣のますますの定着を目指して、学校と家庭がしっかりと連携していきたい。

さらに、クロス集計で学力との相関が見られた児童の「自己認識」のもとになる自己肯定感や自己有用感を育むことも大切にしていきたい。学校でも家庭でも児童が充実感を得られる経験を増やすとともに、児童一人一人のがんばりを認め、心豊かでたくましい米原っ子を育てていきたい。